

拠出金・分担金ワークショップ取りまとめ

拠出金・分担金分野における取組イメージ STEP 1

注：今回のWSでは、任意拠出（イヤマーク/ノンコア拠出）を中心に議論しており、すべての類型を網羅しているわけではない。



STEP 1

まずは、「事業の目的」「現状・課題」欄等で整理

国際社会が直面する課題がどのようになっている、当該課題の解決に向けて、**国際機関**がどのような目標を達成しようとしているのか、**国際機関を通して**、日本としてどのような状態を目指すか、日本に期待される役割は何かという全体像を整理

- ① 専門的知見やネットワークを有する国際機関を通して日本にとって効果的な取組が行われるメリット、
 - ② 一方で裁量の限界等※があり、日本としてどのようにこれら課題に対応しているのか
- を表現すると、手段や取組の妥当性を説明できる
- ※ 例：他国と共同で拠出するという仕組み上の限界 等

紛争の頻発や経済状況など外部要因の影響を受ける場合が多いことから、当初どおり進捗していない場合、進捗に影響を与えた外部要因を補記する

※ 現在の事業が効果を発現した後の次のフェーズが想定される場合も補記することが望ましい。(ex.研修事業により実施国・地域の政府内で人材育成を行った後、実施国・地域自身が自立的に人材育成を行うことを想定)

効果発現経路で整理 詳細は次ページ

担当者に理解してほしいこと！ 

当事者以外が読んでも分かるように「事業の目的」「現状・課題」欄等を素直に書くことのメリット

- ・ 読んで理解できないことによる、論点のずれた指摘を誘発しない
- ・ いきなり指標探しをすることがなくなる。

おのずと、短期アウトカム、長期アウトカム、当面何ができたらよいのかというストーリーが整理され、次のステップである「効果発現経路」の解像度向上につながる

拠出金・分担金分野における取組イメージ STEP 2

注：今回のWSでは、任意拠出（イヤマーク/ノンコア拠出）を中心に議論しており、すべての類型を網羅しているわけではない。

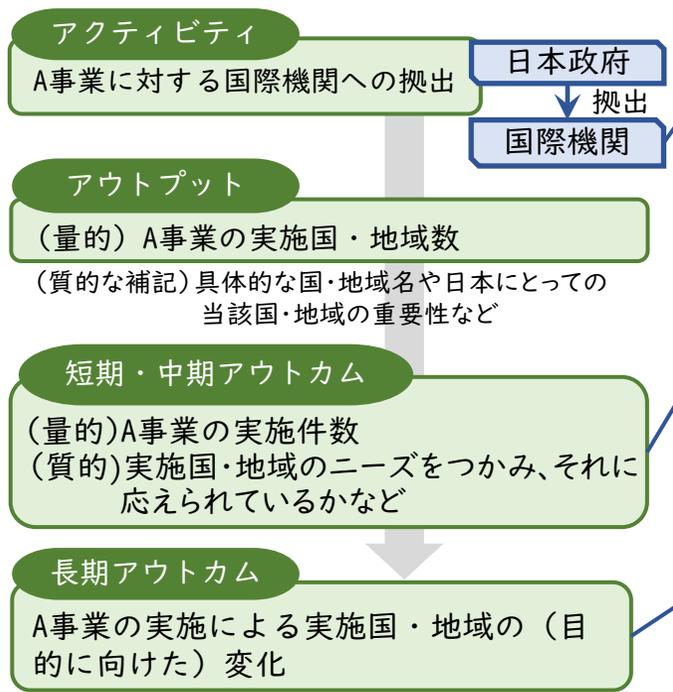


「事業の目的」「現状・課題」欄等で整理
詳細は前ページ

担当者に理解してほしいこと！
 ① 数値の意味を書く（「質」の情報を補記する） メリット
 ・数字だけではわからない工夫・苦勞・努力を理解してもらえ

STEP2

効果発現経路で整理



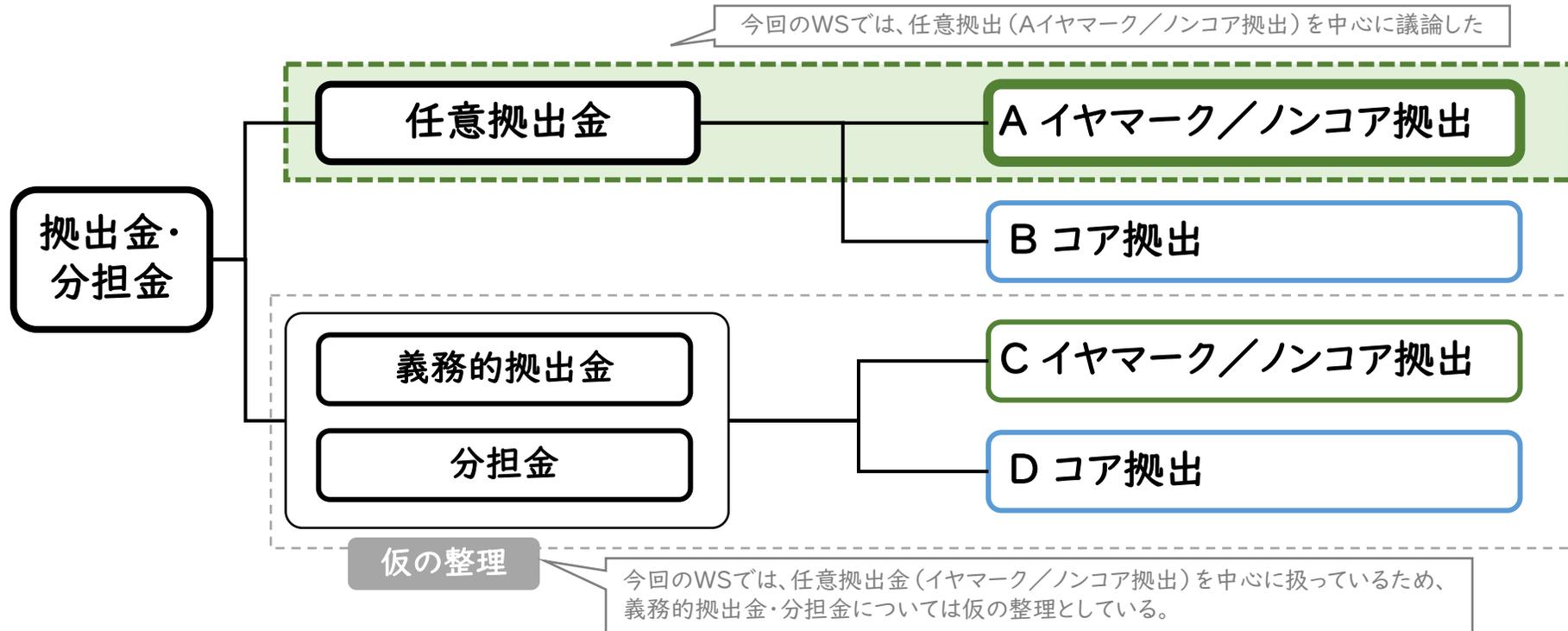
ポイント① アクティビティは日本政府から国際機関への拠出であるが、アウトプット、アウトカムは国際機関が実施する事業に着目。
 ※日本の裁量に限界がある等によりデータ入手ができない場合、国際機関等からヒアリングした情報等も活用し、定性的に記載することも考えられる。
 ※初期段階で正確な政策効果の発現経路を設定しづらい場合がある。
 ex. 新規に拠出が決定された場合等において、国際機関等と具体的な用途について協議中である等

ポイント② ・短期アウトカムは、事業の改善のため、短期間でどのようなことを確認したいか等の観点で、予見可能性の高い目標を設定。
 ・事業の「量」と、その意味が分かる「質」を評価できる指標等を設定。
 ・必要性のみではなく、直面する困難は何か、それをどう越えるかなど「有効性」を説明する知恵を出し合う。

【「質」の補記のイメージ】（「アウトプットからのつながり」欄等に記載）
 ・研修やセミナー、プロジェクトなどの実施内容を具体的に記載した上で、それが相手国や地域のニーズに即しているなど何故そのテーマや内容を選んでいるかを解説
 ・交流事業など長期継続していることに意義がある場合には、継続実績のほか、時代の変化に対応して取組が深化していることを表現することで質を評価することができる

ポイント③ ・長期アウトカムは、（世界情勢等の）外的要因の影響も大きいことを前提としつつ、より高い目標であるインパクト（事業の目的）の達成に向かって、事業の実施により期待される効果を目標として設定。

【参考】ツリー構造による拠出金・分担金の整理



任意拠出金	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性, 効率性, 有効性を踏まえた政策的考慮に基づき拠出する資金 ・ 締約国や参加国の当然の責務として拠出が期待されるものでなく、各国が有益と考える場合に行う拠出
義務的拠出金	設立条約等の法的根拠に直接の規定はないものの、締約国会合や総会、執行理事会等の意思決定機関の決定や規定等によって、締約国や参加国の当然の責務として拠出が期待されているもの
分担金	国際機関の設立条約や2国間の条約等により加盟国の財政的義務を含め規定されているもの
イヤマーク／ノンコア拠出	<ul style="list-style-type: none"> ・ イヤマーク (用途を指定し, 特定国・地域, 特定分野の事業の実施経費に充当) するもの ※ 用途の中には、運営費・人件費に紐づけられる場合もあり得る ・ 特定の目的を持つ (ex) 途上国の人材育成) 事業等に拠出するもの
コア拠出	国際機関の運用維持等に充当されるものとして拠出しているもの

(注) 1 本図は、各府省庁が上記分類とは異なる取扱いや考え方を行うことを妨げるものではない。

2 任意拠出金、義務的拠出金及び分担金の「【定義】」は、国立国会図書館調査及び立法考査局「国際機関の分担金・任意拠出金」(2021年12月20日)を基に記載している。

法執行事務ワークショップ取りまとめ

法執行事務分野における取組イメージ STEP 1



STEP 1

まずは、「事業の目的」「現状・課題」欄等で整理

世の中の変化などにより、解決すべき課題（需要）がどのように
なっていて、それに対する行政による対応（供給）にはどういった
ことが求められるのか、
その事業における目的とは何かという全体像を整理

効果発現経路で整理 詳細は次ページ

法令や閣議決定等に基づき粛々と事業を実施していることのみを表現するのではなく、

- ① 変化※1をどう捉えて、どう取り組んでいるか
- ② 変化によるリスクを顕在化させないために、どう取り組んでいるか※2を表現すると、取組の妥当性や現場の苦労・悩み（＝事業の質を上げる努力）が伝わり、財政当局など関係者の共感を得ることができる

※1 例：国際情勢の変化、技術革新、インシデントの発生、審査対象の急激な増減、人手不足・技能継承者の減少、不正事案の複雑・困難化等

※2 【記載イメージ（「現状・課題」欄）】

地球温暖化等の環境変化により、審査対象がここ数年増加傾向にある（年平均〇件増）。審査する職員は増やせない中で、安全評価の実施水準（年〇件程度）を増やしていく必要があり、申請のオンライン化、形式チェックのシステム化による効率化を進めているところ

→効果発現経路において、例えば、短期アウトカムとして「1件当たりの処理時間（〇時間）」の設定につながる。

担当者に理解してほしいこと！ 

当事者以外が読んでも分かるように「事業の目的」「現状・課題」欄等を素直に書くことのメリット

- ・読んで理解できないことによる、論点のずれた指摘を誘発しない
- ・いきなり指標探しをすることがなくなる

・おのずと、短期アウトカム、長期アウトカム、当面何ができたらいのかというストーリーが整理され、次のステップである「効果発現経路」の解像度向上につながる

法執行事務分野における取組イメージ STEP 2

解決すべき課題



行政による対応

「事業の目的」「現状・課題」欄等で整理
詳細は前ページ

STEP 2

効果発現経路で整理

- ・業務を振り返り（個々の業務プロセスに刻んで考える）、**量・質両面から評価**し得るアウトカムを設定。現場における**工夫・苦勞・努力**でも評価できることに留意
- ・実績値が課題の解決に向けてどの程度寄与しているのか等、必要に応じて**数値の意味を補記**

短期・中期アウトカム

事業の改善のため、どのようなことに注力し、短期間でどのようなことを確認したいかという事業所管部局の「意思」に基づき、予見可能性の高い（外部要因や他事業の影響は少なく、その事業がうまくいけば達成しうる）目標を設定

長期アウトカム

より高い目標であるインパクト（事業の目的）の達成に向かって、事業の実施により期待される効果为目标として設定

量を評価するアウトカム	・年間〇件の申請を処理
質を評価するアウトカム	<ul style="list-style-type: none"> ・申請や対応すべき事象を〇日以内に処理（円滑性・迅速性） ・不正事案の発生率を抑制（厳格性） ・検査すべき対象約〇件のうち〇件を検査（厳格性/数値の意味を補記） ・人員や設備を合理的に配備（合理性） ・人材確保のための努力（持続性担保のための努力） ・軽微なインシデントを踏まえて日々の業務改善を図る（厳格性担保のための工夫）

担当者に理解してほしいこと！

数値の意味を書く（「質」の情報を補記する）メリット

- ・数字だけではわからない工夫・苦勞・努力を理解してもらえる

「質」の評価に係る記載（例）

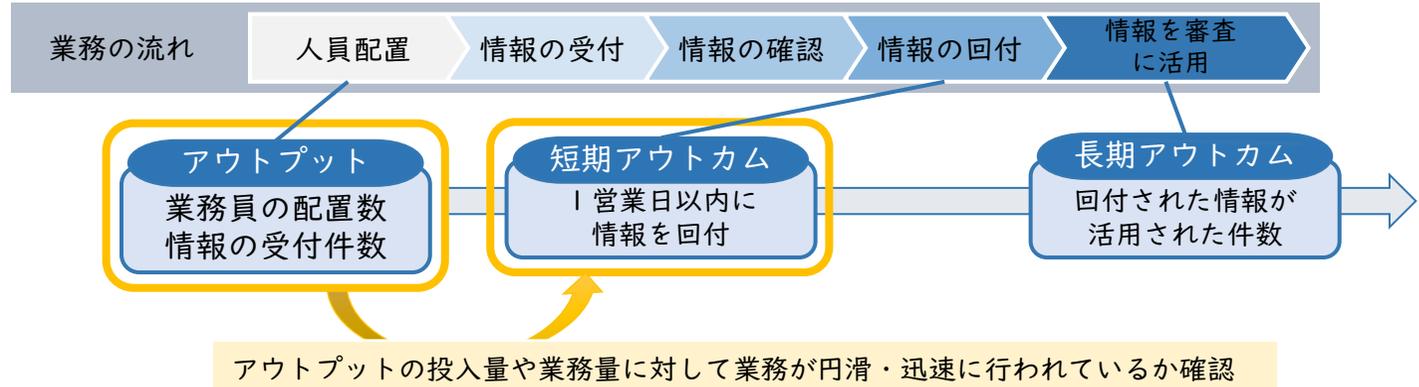
円滑性・迅速性	「アウトカム」欄に記載	・申請や対応すべき事象に対し、適切な期間内に処理が終えられているかを指標とする	例) 申請の受付から○日以内に解決した割合
		・円滑な執行のため、必要な備品等を迅速に整備できているかを指標とする	例) 備品を事前の計画どおりに確保した割合
厳格性	「現状・課題」欄に記載	・業務がルール通りに漏れなくできていることを記載する	例) ○○要領に基づき、作業期間内に対応できている。
		・期限内に処理が終えられなかったものについて、その後の対応状況（放置せず、解決に結びつけたか等）を記載する	例) 唯一、○○事例については作業期間内に対応できなかったが、××によって最終的には解決した
	「アウトカム」欄に記載	・不正事案の発生を抑制できているかを定性的なアウトカムとして設定	例) 厳格な出入国審査ができていないかを定性的なアウトカムとして設定しつつ、増加している出入国者数も踏まえ、口頭審理件数、上陸拒否件数等に基づいて総合的に評価する（各種指標は、「アウトプット/アウトカムからのつながり」欄に記載）。
		・円滑な執行のため、故障率を低下させること等の必要な備品等の稼働状況を指標とする	例) 故障率○%
現場における苦勞・工夫・努力	「現状・課題」欄に記載	・人材を確保する上で工夫・苦勞している点を記載する	例) 受託できる専門機関が減少しているため、一件当たりの単価を上げないと受託者が見つからない状況。
		・現場の業務の質を評価する（褒める）観点からも、業務を実施する上での日々の努力として行っている工夫を記載する	例) 修理待ちの在庫を積み上げないように、各整備工場での整備期間を調整の上、在庫数を割り振っている。
		・業務プロセスの改善など現場の努力・工夫を記載する	例) △△というインシデント事案を受け、○○ガイドラインに防止策を反映した。
		・対応すべき事象が増えていたり、対処が難しい状況になっていたりする場合は、その要因・現況を記載する	例) 安全保障環境の変化を踏まえ、整備期間を○○ヶ月程度に縮めることが必要とされており、現在の備品数では整備が間に合わない状況。
	「アウトカム」欄に記載	・実績の数値が持つ意味を補足説明する（第三者に対する説得力を高めるため、専門性の高い分野については特に有効）	例) ○○検査においては、「排出量□□トン以上の物質の検査数」を活動指標としている。これは□□トンを超えると土壌への影響度が無視できないとの研究結果を踏まえたものであり、実際に□□トン未満の物質による土壌汚染は観測されていない。

「質」の評価に関する指標の設定例

質の視点での指標の設定例①

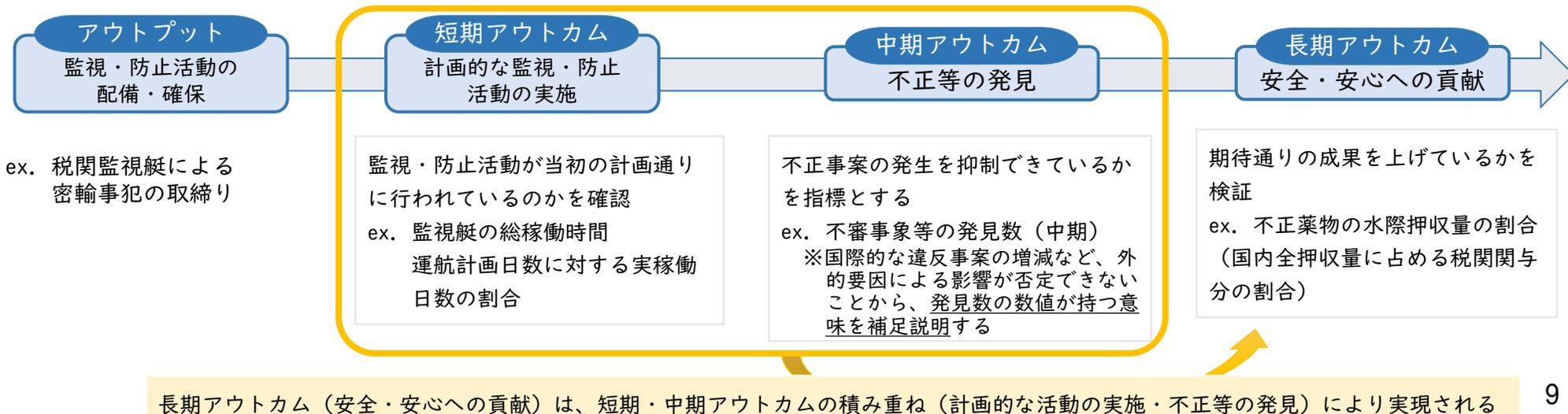
人員の投入量等に対して、対応すべき事象が〇日以内に処理できているかという質の視点（円滑性・迅速性）で指標を設定

ex. 不正の疑義のある情報の回付



質の視点での指標の設定例②

業務が当初の計画通りに行われているか、期待通りの成果を上げているかという質の視点（厳格性）で指標を設定



アクティビティの分類案（法執行）

WSの議論を踏まえた、法執行の業務の分類としては、大きく2つ

- ① 申請に基づいて許認可等を行う事務
- ② 民間事業者等において違法行為等が行われていないかの監督・監視
（必要に応じて報告徴収や立入検査等）

このほか、行政事業レビューの対象となる予算事業においては、

- ③ 上記の機能を発揮するために予算計上しているものがある。
（予算の費目・使途としては、物品購入や修繕等）

これらについても、法執行の政策目的にどう貢献するのか、どう関係しているのかを意識して検討する必要がある。

「行政事業レビューシート 政策効果の測定のポイント」（以下「測定のポイント」という。）の事例を①～③の分類に当てはめると、それぞれ以下のとおり。

- ・ 出入国管理業務の実施（法務省）（測定のポイントP.62） . . . ①
- ・ 市場の公正確保のための経費（金融庁）（測定のポイントP.61） . . . ②
- ・ 税関監視艇整備運航経費（財務省）（測定のポイントP.65） . . . ③
- ・ 大型X線検査装置整備等経費（財務省）（測定のポイントP.66） . . . ③

当初の書きぶり

【現状・課題】

経済産業省・環境省と共管する化審法に基づき、新たに製造又は輸入される化学物質（新規化学物質）について、事前審査のために届出又は所要の確認を受けるため申出される件数は年間約30,400件であり、これらを各省庁の観点から分担して処理している。また、法制定前の既存化学物質を含む新規化学物質以外の一般化学物質の数は現在、約30,000物質で、このうち、年間約13,000物質で製造・輸入の届出があり、既存のデータに基づいて評価等を実施し安全性の確認を行う。なお、既存化学物質を含む新規化学物質以外の一般化学物質について、既存のデータが不足しているものについては、安全性の確認の一環として毒性試験を実施しているが、近年、費用が高額な試験の公共入札が不調となるケースが出ており、活動実施の試験数が伸び悩んでいる。

新規化学物質等の届出又は申出を電子的に受付、データベース化するための3省情報基盤システムの管理では、維持管理のほか、事業者の利便性向上のみならず、有害性情報等の届出内容を審議等の効率化に資するために更改を進める必要がある。

亀井先生のコメント

リスクを顕現化させないことが大事であり、それに対して日々の営みがどう行われているかを表現できれば、スクリーニングしていることの妥当性を表現できると思う

亀井先生のコメント

- ・ ある種の環境変化が記載されていることが良い
- ・ つまり、民間側の担い手である専門機関が減ってきているというところをきっちり書かれていることが良い
- ・ 時代の変化をどう捉えているかという点をRSの「現状・課題」欄で表現すると、悩みが伝わるようになるし、財政当局との議論でもよく伝わるようになる

指摘を受けての見直し案 ※第2回WS

【現状・課題】

化審法に基づき、新たに製造又は輸入される化学物質（新規化学物質）について、国で事前審査や事前確認等を行っており、年間約30,000件の届出に対応している。また、新規化学物質以外で上市済みの一般化学物質（約30,000物質）のうち、年間約13,000物質で製造・輸入の届出があることから、これらについては、国が入手できる最新の既存データに基づいて複数の毒性指標のスクリーニング評価を実施し、必要に応じてさらに詳細な安全性の評価を行っている。なお、新規化学物質の届出に対する対応（事前審査、事前確認等）については、法定又は別途示している行政側の作業期間内に対応できている。一方、一般化学物質について、既存のデータが不足しているものについては、安全性の確認の一環として国が毒性試験を実施しているが、近年、費用が高額なReproTox試験等の公共入札が不調となるケースが出ており、活動実施の試験数が伸び悩んでいる（令和5年度では、ReproTox試験の調達2件はいずれも不調）。

その他、新規化学物質等の届出又は申出を電子的に受付、データベース化するための3省情報基盤システムの管理では、維持管理のほか、事業者の利便性向上のみならず、有害性情報等の届出内容を審議等の効率化に資するために更改を進める必要がある。

※スクリーニング評価、詳細評価ともに一般毒性、生殖発生毒性、変異原性、発がん性の4種類を確認。

※ReproTox試験は一般毒性、生殖発生毒性を同時に見るもの。

ポイント

「現状・課題」欄等に、当事者以外が読んでも分かるように、社会情勢の変化に伴う現場の工夫を記載することで、効果発現経路の解像度が上がるのではないかと

修正後

日々の営みがどう行われているかをより分かりやすく記載（※下線部が修正内容）